

2019年度項目別の自己点検評価表 (横浜 YMCA スポーツ専門学校)

1. 学校の教育目標

横浜YMCAスポーツ専門学校は、横浜YMCAカレッジグループを構成する学校として「横浜YMCA－私たちの使命」に基づき、人間性が尊ばれ、公正で平和な世界の実現を目指して社会に貢献する人材を育成したいと考えています。そのために次のことを大切にしていきます。

①自己学習能力を身につけた人材を育成します

私たちは、学習の場から体験学習を通じて生きる力を学び取っていきます。本校においては、知的な情報収集にとどまることなく、実習、演習などを通じて職業現場から実践的に学習することを大切にしています。また、常に変動していく社会の中で、変化の方向を読みとりながら適切に判断し行動することは各自の学習能力にゆだねられています。常に学ぶ姿勢を忘れずに向上心、研究心をもって謙虚に学ぶことで、自らを高めていきましょう。

②人間関係を豊かにする力を身につけます

人は、複数の人間との関係の中で初めて人となります。人は平和的な人とのかかわりを通してお互いに成長していきます。本当の人間적交わりを体験する機会が少なくなりつつあると言われる現代社会において、職業現場を意識した実習やボランティア活動を通して、コミュニケーション能力を高め、豊かな人間関係形成能力を身につけましょう。

③サービス提供者にふさわしい社会的な行動様式を身につけます

社会において、常に相手の立場に立ち、考え、行動できることは大切です。サービス提供者としてふさわしい社会的な行動様式、あいさつの励行や、時間・提出期限の厳守などを、学生生活や現場実習を通して身につけていきます。

④リーダーシップを発揮できる人材を目指します

リーダーシップとは、集団に対して、作用を及ぼす力、指導力、統率力を指します。最近、多様なニーズをもった利用者や専門職の人びとへの円滑なコーディネーター(連絡調整)の能力もった人材が求められています。学年を越えた学生同士の直接的なかかわりを通して、積極的な自分の意見を発言できることを目指します。

⑤ボランティア精神を理解し、積極的に参加します

ボランティア活動を通して「ともに生きる」ことの喜びと難しさを体験することを大切にしています。「家族」と「学校」という生活の軸に、「地域」が加わることにより、さらに自己成長の可能性が広がります。ボランティア活動をすることは、「地域(の人びと)」とかかわりをもつということです。「自ら」「持てる力で」「続けて」ボランティア活動をすることによって、多くのことを学びます。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

安定した運営状況を目指し、新入生の定員確保及び学費滞納率の低下を目標とします。また、多様化する学生の就学支援に各種専門機関等と連携して取り組みます。学生募集にあたっては、これまでの広報費用をあげることなく各種媒体業者との交渉を行い、高校生への周知方法を継続します。学校の告知方法として、現在では一番有効となる Web での情報公開だけでなく、SNS を利用した双方向のコミュニケーションを可能とした手法を取り入れて、希望者に対して有効な情報を提供できるように、そして丁寧な対応ができるように工夫します。学費納入については昨今の経済状況から奨学金制度利用者が増加している背景を鑑み、学生一人ひとりの状況に合せた納入計画を、学校側も個別に管理し、学生自身が安心して就学できる体制づくりに取り組みます。また近年では学生一人ひとりが自らにあった学習方法を確立できず、専門分野での学習を進めるにあたり課題を抱えていることも多くあります。学生一人ひとりの課題(基礎学力不足、学習経験の不足、学習障害など)を早期に明確にし、クラス担任による定期面談のほか、専門職によるカウンセリングなども取り入れ、多様化した課題を正しく把握するとともに、家庭と、必要に応じた専門機関との連携を持った就学支援を行います。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3, やや不適切…2, 不適切…1
理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野における職業教育の特色は何か)	④ 3 2 1
学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが生徒保護者等に周知されているか	④ 3 2 1
各学科の教育目標, 育成人材像は, 学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

① 課題

理念や学校教育目標をすべての教職員が理解し、知識・技術だけではなく「人とかがかわる専門職」として必要な行動様式をも身につけることを目標として、周知を心がけている。幅広い年齢層に対応できるスポーツインストラクターやスポーツトレーナー、子どもたちを支援する保育士、幼稚園教諭は、業界からのニーズも高く、養成は社会的にも期待されている。魅力ある職業として、魅力ある実践教育の場として、また社会の担い手としての魅力を十分に伝えきれていないことは今後の課題である。

② 今後の改善方策

これからの社会ニーズに適した実践的な指導者・支援者の学校施設であることの認知度を上げるためにも今まで以上に丁寧に高校との連携を図り、出張授業などの積極実施や SNS や口コミなど地道に学校の学習範囲を分かりやすく知らしめる努力が継続的に必要である。

東京で開催が決定したオリンピックに対して、スポーツボランティア等で関わりが持てるかの情報収集を行う必要がある。

③ 特記事項

特になし

(2)学校運営

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切 …1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか,有効に機能しているか	4 ③ 2 1
人事,給与に関する制度は整備されているか	④ 3 2 1
教務,財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4 ③ 2 1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

①課題

情報システム化による業務の効率化については、教職員全員がノートパソコンを有し、情報の共有やメールシステムなどの整備が進んできているが、教務システムや学生の個人情報データベースなど、情報が守られつつ、誰もが取り扱いやすいシステムの構築には改善が必要である。

②今後の改善方策

導入には大きな費用が見込まれる。複数年での計画的な導入が求められる。導入にあたっては、個人情報の保護、取扱いなどセキュリティーにも配慮しつつも、多くの教職員の意見を取り入れ、使いやすいシステムにしていく。

③特記事項

特になし

(3)教育活動

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切 …1
教育理念等に沿った教育課程の編成実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
教育理念,育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	④ 3 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
キャリア教育実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫開発などが実施されているか。	④ 3 2 1
関連分野の企業関係施設等,業界団体等の連携により,カリキュラムの作成見直し等が行われているか	④ 3 2 1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ,実技実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
授業評価の実施評価体制はあるか	④ 3 2 1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1

成績評価単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
資格取得の指導体制,カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
関連分野における業界との連携において優れた教員(本務兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
関連分野における先端的な知識技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1

① 課題

教職員が、学校業務を担うにあたり必要な知識習得のための研修はまだ十分ではない。担当業務の引き継ぎ伝達やOJTだけではなく、学校業務としての事務処理能力、学生対応法などの研修が必要である。

② 今後の改善方策

学科毎に長を定め、半期に一度、シラバスに対する学生の学習理解の進捗について確認を行ってきたが、特に現場経験を積重ねることがでる指導演習や現場実習といった科目については、外部実習依頼先関係者とも連携を密に図ることで学んだ知識や技術が発揮できるような取り組みを強化していく。

③ 特記事項

特になし

(4)学修成果

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切 …1
就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1

卒業生在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 ③ 2 1

① 課題

本校内にて企業を招聘し、合同企業説明会を実施。また、年3回就職ガイダンスを実施し、学生自身のキャリア形成に向けて取り組んできた。就職率の向上にもつながっている。今後はもっとOBOGをうまく活用し、雇用先の拡大を図らないとならない。

② 今後の改善方策

学校評価委員会委員である卒業生たちからも意見をいただきながら、卒業後に現場で活かされた学生生活での学びや経験などを聞き取りながら、教育活動の中で活かせるようにしたい。また、校友会との連携も強めていきたい。さらに、非常勤講師も含めて、キャリア形成に向けた授業として再度、確認していく。

学力不振からの退学を防ぐため、半期毎のフォローアップを実施してきたことで退学者が減少してきている。

③ 特記事項

特になし

(5)学生支援

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1
進路就職に関する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1
保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1

社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
高校、高等専修学校等との連携によるキャリア教育職業教育の取組が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

全クラスに担任制を導入しており、学習面や就職面のサポートを個別に実施してきているが、退学者が毎年数名単位で出てしまっているため、さらに学生との関係を強固にしていくことが求められていると感じる。一方、学生課題の多様化により、教職員に求められるスキルが不十分であることも課題である。

高校との教育連携としては、総合高校のキャリア教育科目への本校教員の派遣、高校生の受け入れと実施して一定の成果も出てきてはいはいるが、まだまだ連携できる部分はたくさんあると感じている。

② 今後の改善方策

学生一人ひとりの課題(基礎学力不足、学習経験の不足、学習障がいなど)を早期に明確にし、クラス担任による定期面談のほか、専門職によるカウンセリングなども取り入れ、多様化した課題を正しく把握するとともに、家庭と、必要に応じた専門機関との連携を持った就学支援を行う。また、校友会との連携を強め在校生への就職支援、インターネットを利用した卒業生向けのアンケートなどを行いリカレント教育のニーズを把握し提供できるよう進めたい。

③ 特記事項

特になし

(6)教育環境

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切 …1
施設設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1
防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

① 課題

地震や台風等、自然災害時における学校からの告知などの方法が課題となっていたが、学生全員にアドレスを提供し、一斉配信できるよう整備した。また、一人一台タブレットの配給ができるよう予算をとれるかが課題。自宅での学習が円滑に取り組めるようにしていくことが求められている。

② 今後の改善方法

災害時、電話だけの対応には限界があったことを踏まえ、インターネット回線での告知ができるよう整備した。災害や天災が多い昨今、定期的に行っている避難訓練についても、イベントのような形とならないよう、毎年見直しを図り、防災体制を確実にするように努める。

特記事項

特になし

(7)学生の受入れ募集

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1
学生募集活動は,適正に行われているか	④ 3 2 1
学生募集活動において,教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

① 課題

定期的にホームページの内容を更新することができていない為、常に最新の情報発信ができるよう取り組む。

② 今後の改善方策

収支バランスの問題もあるが、募集広報費以外の費用削減を図り、充てていきたい。ホームページを含め、WEB 媒体の充実を図る必要がある。

③ 特記事項

特になし

(8)財務

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
財務情報公開の体制整備はできているか	⑤ 3 2 1

① 課題

トレーニングルームのマシンが老朽化しており、時代に見合った設備に投資するための計画的な準備が必要である。修繕及び建物付属設備の充実を図ることが課題である。

② 今後の改善方策

校舎、建物付属設備の点検を実施し、今後は修繕及び設備更新計画を作成。それに伴い修繕資金計画を作成する。

教室の椅子等の入替を完了した。今後、老朽化した机のリニューアルを予定している。

③ 特記事項

特になし

(9)法令等の遵守

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切 …1
法令,専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
個人情報に関し,その保護のための対策がとられているか	4 ③ 2 1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4 ③ 2 1
自己評価結果を公開しているか	4 ③ 2 1

① 課題

自己評価は教職員全員で毎年実施しているが、その振り返りや課題への対応・改善については不十分である。また、結果の公開については出来ていない。

② 今後の改善方策

半期に一度、評価を元に、教職員が課題改善に向けて取り組んできた。今後さらに振り返りのための時間も設定していく。また、学校関係者や卒業生など、外部の委員を召集し、学校評価委員会を年に1回実施する。

③ 特記事項

特になし

(10) 社会貢献地域貢献

評価項目	適切…4,ほぼ適切 …3, やや不適切…2,不適 切…1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
生徒のボランティア活動を奨励,支援しているか	④ 3 2 1
地域に対する公開講座教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか	4 ③ 2 1

① 課題

年に1回開催しているバザーにおいて、地域の商店会と共催し、収益の全額を国際地域協力募金として提供しているが、蚤の市の献品などが年々減少していることに比例し、売り上げも減少していることが課題である。

戸塚区内にあるキリスト教会合同クリスマス会の事務局及び会場として携わり、キリスト教主義学校として地域の一員となっている。広く活動をアピールしていくことが今後の課題である。

② 今後の改善方策

学生ボランティア委員を立ち上げ、委員を中心とした活動の輪を拡大させていきたい。学生に、自らが進んで、意志を持って活動に参加するように、意識を高める支援をしたい。そのためにボランティア活動で得ることのできた体験を一過性のものにしないよう、学生間での報告会の開催などを企画し、発信の機会をつくりたい。スポーツ関係のボランティア情報、特に横浜マラソンや障害者スポーツイベントのサポートボランティアに積極的に参画していく。

③ 特記事項

特になし

(11)国際交流(必要に応じて)

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切 …1
留学生の受入れ派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4 3 2 1
受入れ派遣,在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4 3 2 1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4 3 2 1
学内で適切な体制が整備されているか	4 3 2 1

①課題

②今後の改善方策

③特記事項